

2012年7月15日 (日曜日)

## 菅・前首相が熱弁(四谷)

菅直人・前首相が四谷駅前のレストランで「脱・原発ロードマップ」を約1時間にわたり熱弁。ぎっしり詰めかけた約500名の聴衆からたくさん質問と声援が送られた。菅氏は「原発は、いったん事故が起これば無限大の被害が発生、一度に大量の電源が失われることなどエネルギー安全保障上、極めて脆弱なシステム。未だ放射性廃棄物の最終処理ができず、仮に確立できたとしても10万年以上の長い管理が必

# 2025年までに「原発・ゼロ」

## 「脱・原発」ロードマップを提言

「消費税アップ」と並び「原子力発電」問題が、今や日本の進路を決める焦点の課題となった。7月4日、菅直人・前首相が四谷駅前のレストランで「脱・原発ロードマップ」を約1時間にわたり熱弁。ぎっしり詰めかけた約500名の聴衆からたくさん質問と声援が送られた。菅氏は「原発は、いったん事故が起これば無限大の被害が発生、一度に大量の電源が失われることなどエネルギー安全保障上、極めて脆弱なシステム。未だ放射性廃棄物の最終処理ができず、仮に確立できたとしても10万年以上の長い管理が必

要だ。未来の世代に膨大なツケを回すことにならなければならない」と述べ、「2025年度までに原子炉稼働をゼロとして脱原発を達成する」と「脱・原発」の行程表を示した。また「新エネルギーシステムの転換(コージェネ、ガスコンバインド、省エネルギー技術、再生可能エネルギーなど)を図り、電力市場の改革、分散型エネルギーへの転換」の行程表を示した。

このセミナー情報交換会はREB-1000社の会(代表世話人・清水修司氏)とSD建築企画研究所が主催したもので、会場には、吉岡博光・東京女子医科大学理事長や五十嵐久也・芝浦工業大学理事長ら多数が姿を現した。

第35回「不動産ビジネスの商機を拡大する」セミナー



「脱・原発のロードマップ」を熱弁する菅直人・前首相

年度	2010	2020	2025	2030
省電力割合 (%) 2010年度比	0%	15%	20%	20%
総発電量 (億kWh)	11,613	9,871	9,290	9,290
原子力発電量 (億kWh)	2,882	0~1,582	0	0
原子力依存度 (原子力発電量/総発電)	25%	0~16%	0%	0%
火力発電量 (億kWh)	7,594	7,548~5,966	5,806	4,645
化石燃料依存度 (火力発電量/総発電)	65%	76%~60%	62%	50%
再生エネルギー発電量 (億kWh)	1,137	2,323	3,484	4,645
再生エネルギー割合	10%	24%	38%	50%

換などで、新たな成長産業を創出し、温暖化リスク、エネルギー安全保障リスクを「最小化する」と提言した。